

## LEE' S Letter リーズレター P.A.2nd

No.10 (通No.89)

2016/6/21夏至

## 『目がチカチカするぐらい』

ブームは去ったかもしれませんが、すっかり定着した感の韓流。ドラマにハマった男性は、人には言わなくても、わたしには自らすすんで話題。

あの人、この人、けっこういます。ドラマ好きが。「休みの日なんか、7本も続けて見たりして、目がチカチカぐらい」。気持ちはわかります。

CSで偶然みつけた、『ヒーラー』、『ディア・ブラッド』、なかなか見応えあり。韓流ドラマも進化しています。

## 香山と若冲

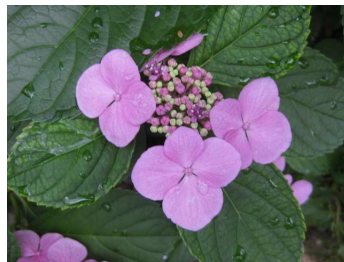
案内ポスターを見た時からただならぬ才気を感じた、没後100年特別展『宮川香山』。こじんまりとした大阪市立東洋陶磁美術館、1時間半もあれば十分と思いきや、後半の展示室へ移る頃には、“また来るとしよう”。

帰り間際にもう一度最初の展示室へ。作品を眺めながら、“前にも同じようなものを見たような…”。ああ、若冲…、若冲に通じるものがある。共に京都の人。今年は伊藤若冲の生誕300年でもあります。

## フェアで、ファンクショナルで、フレキシブルであるために

日曜の屋下がり、散歩がてらに図書館。棚を順に見てまわり目にとまった『心とコンピュータ』（1995年ジャストシステム）。数学会の夏季セミナーを記録した本。第一線の研究者たちが子どもたちに語る。一番興味をそそられたのは「松本元」。脳型コンピュータの研究者。以来その周辺の本を読み始めたのが1996年8月。

20年後の今、この文字を見ない日はない「AI人工知能」。一昨年9月新聞で「ワトソン」を知り、“いよいよ来たか…”。最近の『AIの暴走をとめる非常ボタン開発』に、さもありなん。人工知能の父「マーヴィン・ミンスキー」がこの1月に逝ったというのも象徴的。AIが普及の段階に入ったということ。



直近の記事には『人事にAI』。働きぶりも追跡調査して、評価や最適な配属をはじめだすのだとか。記事の結びに『華々しい成果を裏で支えてきた人たちを正に評価できるかも、ハードルになる。人事部でも人とAIの役割分担を探る必要がある』。

昨年12月発表の野村総研のレポートは『創造性、協調性が必要な業務や、非定型な業務は、将来においても人が担う』。

仕事や人の集う場がフェアでファンクショナルでフレキシブルであるために、人の＜野性的知性＞。見てとり、読みとり、感じとる。感知、察知、直観する精神の働き。人ならではの才覚、損ねてはもったいない。特に、「上にたつ人」は。

## 自分の話もして、相手の話も聴く習慣

「自分の話は聴いてほしいけど、人の話は聴かない、聴けないという人は多い」と一人のアラフォー女性が話し、聞いていた女性たちも、そうそう。そうなのかと当方。

「友達と将来について話し合う？ そんなこと、しませんよ」。20年前の1997年前後、専門学校で教えていた頃、休み時間、教室にいた数名とどんな話をしていたのか、高校を卒業したてで前途をいろいろ考える年頃の彼らに尋ねて、返ってきた言葉。「じゃ、どんな話をするの？」

と聞きかえすと、「えっ？ う～ん、テレビの話とか…」。

彼らも今や40歳前。専門学校の学科にCG科やWebデザイナー科ができて、ネットが生活に浸透し始め、ケータイを皆が持つようになった20年前。＜友達＞の概念も関係性も、この頃から変ってきたのかもしれませんが。誰でも、将来を考えないはずはないし、不安もあり、迷い、憂う。自分もそうなら、人もそう。内にとためず、話して聴き合う社会習慣で、健やかな日常を。